

# 碩菴学園在り

RAKUNO GAKUEN



## Green Stage

冬の夜、光に包まれた黒澤記念講堂

Vol.100  
2004.2.16

聖句

「家を建てる者の退けた石が隅の親石となった。これは主の御業（みわざ）わたしたちの目には驚くべきこと。」（旧約聖書・詩編 118：22～23）

The stone which the builder rejected as worthless turned out to be the most important of all. This was done by the Lord; what a wonderful sight it is!

(Psalm 118:22-23)

## 年頭所感



## 魅力ある学園建設をめざして

理事長 平尾和義

## 次期中期計画の推進

いま多くの学校が就学人口減少という社会の構造的変動を背景に、国の教育政策、社会の構造改革や教育改革の嵐のなか、競争による優勝劣敗が鮮明になりつつあり、重大な岐路に置かれています。

このようななか学園経営の基本、行動規範とした'98中期計画は本年度で終わり、これに続く新たな'04教育・財務中期計画の基本構想骨子が去る12月11日の理事会で承認されました。

'04年を初年度とする6か年の将来構想すべてが具体的にはなっていませんが、年次計画により取り進め、当面する3か年のアクションプランともいうべき実施案が実際に機能する段階に入り、具体的な工程表をもって進められようとしています。

学園がめざす教育研究の現状、目的と方向をあらためて認識しながら、今後の活力ある教育活動の展開、健全な経営持続のためにも、計画と構想の一つひとつそれぞれが、その目的を果たし段階的に、限られた資源を有効活用し、総合的な調整を図りつつ、全体的統合の下にこれが推進されることによって、学園教育の特色と独自性を一層発揮し、現実の状況に整合する持続性と信頼性が保証される魅力ある学園を建設しようとするものです。

## 改革への取り組み

教育組織の再編、改組転換をはじめとする一層の教育内容充実、課題改善は現在策定中です(大学、来年4月)。施設設備も単なる整備計画のみではなく、これに付随する計画として目的意識をもって進めたいと考えています。またこのような教育組織、制度などの枠組変更と連動させながら、学園の人的、物的力を集中し、多岐にわたる課題改善に向けての転換作業が必要であり、収支バランスによる財務体質の改善や将来計画のために資金の蓄積などを推進しなければなりません。いま私たちが考えなければならないことは、私学として建学の精神を踏まえ、いまの現状に即応してどんな組織を作っていくか、現在あるもののうちで何を変え、何を伸ばしていくことが大切なのか、改革すべき課題が多いなかで展望を持ち、英知を集め、集団としての知恵を出しあい協力しながら具体案を立てていかねばならないことです。そしてその視点は、学園が学生生徒、産業界、社会の要請に応える経営か、決して独り善がりではなく外部に目を向けて、社会の学園に寄せる期待の高まりをあらためて認識しつつ、役職員すべてが教育の実践や学園経営を変える意欲と勇気をもって目標に向かって立ち向かわなければなりません。

## 各部局の連携が大切

学園は大学、短大、高校が同じ教育理念の下に一つのキャンパス内に、各学校が歴史的伝統に支えられた教育コミュニティを形成しています。各学校が相互に理解しあってさまざまな困難を克服して、教育の本質を見失うことなく連携の実績を上げています。中期計画を進めるにあたり、それぞれがその役割を果たしながらさらに一層学生生徒、若者の信頼を得られるような意識を全員が共有し、一丸となって一体的意志を前進させることがきわめて大切です。各学校それぞれのめざす教育目的、方向を基盤に、これがバラバラではなく教育上の連携、接続はこれまで以上に横断的、総合的に深化させ、それらを統合した教育の魅力やアイデンティティをどう確立し、対外にアピールしていくかは、学園教育と運営に求められる大きな課題と強く認識しています。これを実現する仕組みは教育方法、教育技術力の開発改善など教育力の向上が不可欠であり、次期計画の柱になっています。

私たちは、学園の歴史はいつの時代にあっても重い現実や時代状況にあり、またそのなかで希望を失わず努力する多くの人々がいたことを忘れてはなりません。

21世紀に力強く生き抜く魅力ある学園づくりに皆さまの変わらぬ激励と支援、協力を心からお願ひ申し上げます。

# キャンパスレポート

## 食流・創設10周年 記念式典と講演会を 開催



酪農学園大学酪農学部食品流通学科は10月3日、学生ホールで創

設10周年を祝う式典と講演会を開催し、同学科の教員や大勢の学生が参加しました。

式典は鈴木忠敏助教授の司会で行われ、田村實学科長の開会の辞から大谷俊昭学長の式辞へと続きました。

この中で大谷学長は「食糧基地に陣取った食品流通学科であるが、やはり生産の段階から追って流通問題というものを考えなければ、本当の解決にはならない。食糧基地に身を置くということは、問題の根源を探るという意味では非常に良い」と述べ、学科の今後については「循環・共生という自然を傷つけない農業を追求する立場からいうと、農業のあり方を認めるような流通形態が求められなければならないが、消費者のほうに目が向き過ぎているという感じがある。生産と消費がいかに流通という場で合致していくか、という一つの方式を探ることが課題である」と述べました。

式典の後に行われた記念講演は、まず基調講演として、(株)西友取締役会議長代表執行役(前日本チェーンストア協会会長)の渡邊紀征氏による『21世紀のチェーンストアについて』が行われました。

渡邊氏はスライドを使ってチェーンストアの変遷、スーパーマーケットの課題と戦略などについて説明し、講演の最後には「これからはお客基点のマーケッ

トに変えていかなくてはならない。同質化ではなく差別化、差異化であり、そういった変化を先取りして、我々自身が変わっていかなければならない。国や企業はもちろん、あなた方個人もそうだということを覚えておいてほしい」と学生に呼びかけました。

続いてパネルディスカッションが行われ、パネリストに渡邊氏、(株)札幌東急ストア専務取締役・佐川広幸氏、丸果札幌青果(株)常務取締役・久保稔氏、ホクレン農業協同組合連合会調査役・河野正氏を迎え、生産、流通、販売のそれぞれの立場で今後の流通について討論が繰り広げられ、学生たちは熱心にメモを取るなどしていました。



## 農経・創設40周年 コンサートとシンポ ジウム開催

酪農学園大学酪農学部農業経済学科は創設40周年を記念し、学生ホールにてコンサートとシンポジウムを開催しました。

10月18日に行われた「ハイブリッドコンサート～合唱とジャズのひととき～」は、ホクレンの役員やOBを中心に結成された男性合唱団、ホクレングリーンコールによる心地良い合唱で始まりました。『ふるさと』『紅葉』など誰もが知っている



ような曲ばかり11曲を披露しました。ゲストに電子オルガン奏者の浜頭瑛嗣さんを迎え、そのすばらしいオルガン演奏に、観客全員が吸い込まれるように聞き入っていました。

第二部は、1995年に結成され、毎年札幌で定期コンサートなどを行っている Dream Factory Jazz Orchestra によるパワフルな演奏と歌で、曲にあわせて手拍子するなど、会場全体が一つとなり、楽しいひとときを過ごしました。

10月30日には、「WTO体制下の日本・北海道農業の展望」をテーマに記念学術シンポジウム(第29回学科シンポジウム)が行われました。最初に村岡範男学科長よりあいさつがあり、「第1回目の1975年以降30年の間、農業をめぐる環境がいかに厳しいものであったかということであらためて知った。今回はタイムリーなテーマでもあり、実り豊かなものとなることを願う」と述べました。

シンポジウムは座長の市川治教授の司会で行われ、はじめに早稲田大学教授の堀口健治氏が「WTO体制下の世界の農業と日本・北海道農業の課題と展望」について、その後、元中標津農協組合長の三友盛行氏が「資源循環型北海道農業・酪農の実践と展望」について講演しました。両氏の講演後、コメンテーターとしてお招きした、東京農業大学の美土路知之氏、北海道農業研究センターの南部博氏にお話しいただいた後、参加者との質疑応答へと続きました。

## 札幌圏私大単位互換 協定に3大学1短大 が参加



札幌圏の私立大学・短大の単位互換制度に、

来年度から新たに3大学1短大が加わることになり、12月6日、札幌市内のホテルにおいて調印式が行われました。

2001年から始まった国道12号線に位置する4大学・3短大間の単位互換協定は順調にその成果をあげていますが、今回新たに札幌大学、北海道東海大学、札幌国際大学、札幌国際大学短期大学部が加わったことにより、参加大学数は7大学、4短大となり、札幌圏という名称にふさわしい状態になりました。これまでは400科目を相互に公開し、今年度は86名の学生が131科目の単位取得をめざしていましたが、今回の協定によって新たに560科目が増加し、合計960科目となります。参加大学・短大の学生にとっては時間さえあれば、いろいろな大学のキャンパスライフを楽しむことが可能となります。

学生が大学を選択する動機はいろいろあると思いますが、入学した後にその旺盛な知識欲に大学の教育科目が必ずしもマッチしていない部分もあること、それぞれの大学において自己完結で授業科目数を増やすことには限界があること、さらに大学の授業内容の改善も必要であることなどからこのような協定を推進することで大学・短大の教育改善につながると考えます。全国の大学の流れに5年程度遅れたわけですが、ようやく実を結びそうです。

## 学園トピックス



### 大学・大学院 短期大学部

#### 黒澤西蔵の半生 江別の劇団「川」が公演

江別市のアマチュア劇団「川」(春日功夫代表)は創立30周年記念として、本学創立者黒澤西蔵翁の半生を描いた劇「北斗にきらめく—黒澤西蔵物語—」を12月6、7日の2日間、市内のえぼあホール(市民文化ホール)で公演しました。

劇は少年時代から始まり、北海道に渡って酪農義塾を創設するまでの青年時代が中心で、



数々の困難に立ち向かっていく翁の姿がユーモアを交えて描かれています。

劇団「川」は常に江別に根ざし、公演回数は既成脚本、創作脚本に関わらず毎年1~2回程度。農家の青年たちが中核となっています。今回、翁をテーマにしたのは、江別にあり、江別を元気にしてくれる対象を—という理由からでした。

代表の春日功夫さんは「今は特に厳しい時代。自由も希望も守られた国ひっそくにいるはずなのに、その通塞感ひっそくは黒澤西蔵が生きて

きた時代を思い起こされるが、彼は常に立ち止まらなかった。彼の生き方を少しでも感じることができれば、そして少しでも勇気につながれば幸いと考えています」と話していました。

#### 地域環境学科特別講演 写真家の阿部幹雄氏招く

酪農学園大学地域環境学科は12月10日、黒澤記念講堂において「イトウ最後の聖域・宗谷—母なる自然に学ぶ」と題して特別講演を開催しました。

講師の阿部幹雄さんは、北大工学部を卒業し、写真家・ビデオジャーナリストとして雑誌、新聞、テレビ等で自然や政治、事件など広範囲に取材し活躍されています。現在は、主に宗谷

の河川で絶滅が危ぐされているイトウの撮影を行っており、河川と森林の生態系に強い関心を抱いていらっしゃいます。

講演では、イトウの生態や7年間イトウを見てきて気づいたことなどについて述べ、地域環境学科の学生に対して「できれば教室に閉じこもらずにフィールドに出てよく観察してほしい。母なる自然は私たちにいろんなことを教えてくれます」と語りかけました。

講演終了後、中央館8階においてティーパーティーが催され、



阿部さんを楽しみひとときを過ごしました。



### とわの森 三愛高等学校

#### 『とわ祭』報告

生徒会顧問 東條めぐみ

本校の学校祭は、今年、大きな変ぼうを遂げました。開催時期は7月から9月へ移行し、学校祭と酪農経営科の行事の収穫感謝祭を合同で開催しました。9月20日に一般公開をして、昨年を上回る1,220名のお客様が来校し、新しく生まれ変わった学校祭「とわ祭」を楽しんでいただきました。

今年は開校以来初の試みである「とうきび☆コーンてすと」を行いました。9月の収穫を目標に、全校生徒でとうきびを種からまいて育てるという企画です。各クラス1列畑を引き受け、経営科の助けを借りながらつい

に収穫までこぎつけ、1人1本とうきびを持ち帰ることができました。一般公開日には、スタンプラリーで野菜をプレゼントし、特産品フェアでは経営科の在校生、卒業生の地元の特産品を集めて紹介、提供しました。北は別海の「こめちち」から南は沖縄のヨーグルトまでとわ祭を盛り上げてくれました。保護者を始め多くの方々のご協力により無事終了することができました。ありがとうございました。

#### 『普通科修学旅行』報告

宗教主任 榮 忍

10月24日~29日、2学年の普通科の修学旅行が行われました。歴史と平和を学ぶことを柱に、大阪・京都・沖縄へと足を伸ばしました。

事前の調査・準備を元に、京都では自主研修、沖縄では戦跡訪問・平和礼拝を通し、体験者の証言を聞くなどのプログラム



が組まれ、現地で触れて学ぶ充実した時を持ちました。

また「USJ」「美ら海(ちゅらうみ)水族館」「マリンスポーツ」など、北海道では味わえぬ楽しみを友人たちと共に過ごし、交流を深める機会となりました。

5泊6日を220名の生徒を連れての一大行事ではありますが、得がたい経験としてそれぞれの心に刻まれ、今後の生き方・考え方に影響を与えるであろう時を過ごし、帰着しました。

#### 見聞広めた 欧州酪農研修旅行

教頭 柴橋 伴夫

酪農経営科の第19回欧州酪農

研修旅行が、11月1日(土)から14日(金)までの2週間にわたって実施されました。この研修旅行の目的は、まずデンマーク酪農事情を学ぶことです。ロスキレ食肉学校の見学やカーロ農学校で講義などをうけ見聞を広めました。また生徒は、5日間現地で酪農実習(ファームステイ)を体験して、酪農家の人達と幅広く交流をしました。また創立者黒澤西蔵先生が共鳴した牧師であり偉大なる教育者グルンドヴィを記念したグルンドヴィ教会も訪れました。その後ローマとパリを回り、歴史と文化が開花した個性的都市を訪れ、思い出深い旅となりました。



## 酪農学園の新しい取り組み(地域環境学科)

### GISって何? 地理情報学 金子正美 助教授



GISをご存知でしょうか?

GISとは、Geographic Information Systemの略で、日本語では地理情報システムと訳されています。

GISは、コンピュータに取り込んだデジタルの地図を解析し

て、農地の管理、道路やダム建設などの環境アセスメント、環境教育、コンビニの最適な立地分析、交通情報の配信など、さまざまな分野で使われているコンピュータ技術です。農業分野でも、人工衛星の電波から自分の位置を知るシステム(GPS)や、人工衛星・航空写真の画像解析技術

(リモートセンシング)といった先端情報技術と融合し、例えば、牛にGPSを内蔵した首輪をつけて行動を追跡し、衛星画像から評価した環境診断マップと重ね合わせて、牛がどのような環境を利用しているかを評価したり、米の品質や草地の生産量を衛星画像から推定し、刈り取り時期や精密な施肥スケジュールを決定したりと、GISを活用した精密農業への応用も始まっています。

私たちの地理情報学研究室では、自然環境と農業の共生に関するさまざまな問題をテーマとして、釧路湿原の乾燥化と農地開発との関係やエゾシカの保護と農業被害の解析など、GISを使った研究を進めています。

これからも、最先端のIT技術を駆使して、本学の建学精神でもある循環型農業と環境保全の研究に取り組んでいきたいと思っています。

### インタビュー ゼミで得たもの

#### ◆なぜ地理情報学ゼミに入ったのですか?

後藤—授業を受けてみると最先端の技術のような気がしたので、ぜひそれにふれてみたいと思いました。

有富—高校で学んだ情報に比べて1段階も2段階もレベルの高いことを学べるのでやってみたかったんです。

田中—人と違うことをやりたかったので、GISというめずらしい分野にしました。

佐藤—最初は動物についてやりたかったんです。でも先生からいろいろ話を聞いてGISを使った生態調査などももしろい分野だなと思いました。



後藤康一さん



有富雅志さん

#### ◆ゼミではどんなことをしていますか?

後藤—ゼミに入ってからはずっと自分が興味のあることについてポスター作りをしています。ARCVIEWというソフトを使ってデータを作るので、ずっとパソコンに向かっていきます。

田中—絵になるまでExcelなどさまざまなソフトを使っての地道な作業なので大変ですね。

後藤—必要ならば各自で現地調査にも行きます。会社訪問なんかもあるんです。

有富—実際に企業ではGISを使ってどんなことをしているのかを見に行ったりするんです。

#### ◆GISのおもしろさは?

後藤—データを作り上げた時の



田中千尋さん



佐藤えりかさん

達成感ですね。

有富—まだ自分の知らないことがいっぱいあるんだと感じられることです。

田中—慣れるまではすごく大変ですが、いったん慣れてしまうとメッシュにしたりバッファにしたりできるのがおもしろいですね。みんな違うテーマでやっているのに飽きないです。

佐藤—目で見てわかる変化だけでなく、GISを使って数値化・図式化して初めてわかる変化があるということですね。

#### ◆ゼミに入ってみてどうですか?

佐藤—自分からやりたいことに対してアプローチしていかないと、ただ取り残されてしまうので、GISでこんなことができる、

ということ自分から働きかけていかなければいけないと感じています。

有富—もちろん先生も助けてくれますが、自主性が問われますね。

#### ◆今後やってみたいことは?

有富—まだ自分だけで1から10まで作ったことがないので、卒論などは自分の力で全部作ってみたいと思います。

田中—情報としての絵は作れてもそこから解析していくことがまだできないので奥が深いな、と感じますね。

佐藤—ポスターを作ることはできるけど、そこからどうしたいのかと聞かれるとまだわからないので、その先のステップに進んでいきたいです。



### 地域環境学科第2期卒業生

鈴木龍太さん  
内蒙古農業大学在籍

現在私は中国の内モンゴル自治区の呼和浩特市(フフホト)市という場所にいます。

ここで私は、内蒙古農業大学の学生として生活しています。内蒙古農業大学は酪農学園と研究協定を結んでいる大学の一つで、内蒙古農業大学から酪農学園へは、これ

まで何人も研究に来られています。酪農学園から内蒙古農業大学へ留学したのは私が初めてのことです。私は、この大学で、内モンゴルで急速に広がっている砂漠と変化する農業との関係を、地理情報システム(GIS)を使って研究したいと考えています。こちらに来てまだ3ヶ月程度しか経っていませんが、多くの友人もでき、その人達から中国語を学んだり、この地での生活の知

恵なども教えてもらったりして、生活しているだけで勉強になります。

中国は今、急速に発展し、ここ呼和浩特も同じことが言えます。それは、ついこの前まで建物がなかった場所に、3ヶ月でちょっとしたマンションが建っていたりします。中国のパワーに圧倒される毎日です。

この先多くの問題があると思います。そして挫折するときもあると思います。しかし、たくさんの支えに

助けをもらいながら頑張りたいと思います。そしていつか、酪農学園大学からこの地で何かを学びたいという学生がいたら、その時は私がその人達の支えとなれるようになりたいと思っています。



## 活躍する同窓生 Vol.8

## 自らの力で切り開くこと の中に意味が

カナダ在住 Kawai Dairy Farm

河井 良夫 さん

酪農学科第7期生

1970(昭和45)年卒業

### ◆ 学生時代

1966年の春、列車で札幌に到着。まだそこかしこに残雪があり、その広大な風景は今でも心に残っています。当時、大学は7年目を迎えていて、校舎といえば、本館と木造校舎が3つか4つ、乳製品工場、食肉工場、創世寮などが点在する、現在の大学とは比べようもない姿でした。

私たちの学生時代は、1960年代の後半に当たり、どこの大学も学生運動で騒然としていました。しかし学生時代に社会、宗教などについて深く考える時間を与えられたことは、今でも私の生き方に大きな影響を受けています。また柔道部に所属し、練習に明け暮れたこと、家畜飼養学研究室での豚の飼育と論文作成に追われた日々も、懐かしい思い出です。



### ◆ プロフィール

(世界を見る)

1970年、秋葉先生(浜松聖隷高校)のお世話で酪農実習生として、アメリカ、ニューヨーク州に渡り、2年間、ニューヨーク州、ペンシルバニア州、カナダオンタリオ州の農家で働きました。自分の目で世界を見てみたいという欲求の手始めとして、アメリカを選んだわけですが、当時1ドル360円の時代で、物価の高さ、生活水準の高さには目を見張りました。特に酪農家は、日本と比べて、簡単に効率よく経営し、しかも生活程度が高いことに驚かされました。アメリカの底力は、こうした農業が基盤になっているということも勉強になりました。

1972年秋、ちょうど沢木耕太郎著『深夜特急』に書かれたような旅に出ました。アメリカをスタートし、ヨーロッパ、北アフリカ、中近東、インド、東南アジアから日本へという道筋をたどりました。2,000 USDを持っての約10ヶ月の貧乏旅行でしたが、多くの若者たちとの出会いがあり、特に3ヶ月滞在したインドの印象は強く、先進国からは想像できない生活が今でも心に焼きついています。(チャレンジ)

1975年5月、28歳になっていた私は、機会を得て、カナダ



アルバータ州レスブリッジ市の酪農家で働くことになりました。果たして自分の力で酪農を経営することができるのか、暗中模索の状態でしたが、とにかくそれから7年間は、がむしゃらに働き、資金調達に努めました。(独立)

1980年に35歳で結婚、1981年、日本から少々の借金と合わせて、念願の独立を果たしました。30頭の牛を購入、トラクターもなく、トラック1台で古い酪農家を借りての出発でした。それからの3年間は、干ばつが重なって苦しい生活でしたが、1986年9月、15エーカー(7町歩)の土地を購入。130頭入りの古い牛舎、ダブル6ヘリンボーンの搾乳室、トレーラーハウスなどがついて、当時日本円で約3,000万円でした。

この資金はアルバータ州政府と銀行から借りたわけですが、私にとって幸いだったのは、連帯保証人を要求されなかったことで、実績と多少の自己資金があれば私のような移民でもチャンスが与えられたことでした。これは、カナダという国の懐の深

さに助けられたわけです。

現在クオータ(ミルクの出荷権利)を徐々に買い増しして、搾乳牛65~70頭にまで達しています。このクオータが異常なほど高騰しているため簡単に経営規模を拡大することはできませんが、移民としてカナダという地に根を下ろして頑張っていくつもりです。



### ◆ 最後に

酪農学園大学の皆さんも、自らの力で自らの人生を切り開いていくことの中で、学ぶこと、得ることの大きさを知ってほしいと思います。時の運さえも味方につけてしまうくらいの気概を持って、それぞれの人生を歩んでいかれることを希望します。





とわの森三愛高校(シオン寮)同期同窓会

## 同窓会だより

### ◆◆ 農業経済学科農業政策研究室同窓会 ◆◆

同学科農業政策研究室同窓会(工藤英一研究室)は、10月4日 本学において大谷俊昭大学学長はじめ、農業経済学科の先生方の出席を得て特別講義と研修会が行われました。研修会終了後は新札幌のホテルにおいて懇親交流会を行い有意義に終了致しました。

### ◆◆ 農業経済学科20期卒同窓会 ◆◆

同学科20期卒同期による同窓会が11月15日、札幌市内のホテルにおいて大谷学長、工藤英一教授が出席し学習交流会を行うなど卒業後20年ぶりの同期同窓会として開催され、恩師と同窓生との忌憚のない交流会を行う事ができました。

### ◆◆ 神奈川県支部同窓会 ◆◆

11月25日、静岡県伊東市のヤクルト伊東研修センターにおいて支部同窓会の総会とシンポジウムの開催に、高橋節郎同窓会連合会長、大谷学長、奥野誠関東同窓会会長が出席し開催されました。総会では報告事項と役員改選を行い、引き続きシンポジウムでは食の文化を考えた「北の大地のスローフード」についての学習会を行い総会を終了致しました。なお役員改選では藤村翼氏が支部長を退任し、新支部長に平岡征雄氏が選任されました。



### ◆◆ 関東同窓会総会 ◆◆

11月29日、関東同窓会(1都6県)における通常総会とシンポジウム等の同窓会が開催され、高橋会長、安宅一夫短期大学部学長、後援会井上詳介常務が出席致しました。関東同窓会は各支部長および事務局長、役員による同窓会の総会が開催されております。初めに奥野会長より開会のあいさつ、続いて高橋会長より酪農学園への理解協力と同窓会活動について等あいさつを行い、また、議案審議の提案事項は異議なく承認されました。総会終了後安宅学長、井上常務より夫々あいさつをいただき、シンポジウムでは藤村翼氏より「極楽への切符」と題しての学習会が行われ全日程を終了致しました。



### ◆◆ 獣医学部の学科・支部同窓会 ◆◆

獣医学部の同窓会関係では、支部同窓会として10月3日に青森支部が青森市において、本学岩井浜教授を招き学習交流会を開催しました。福島支部は11月8日に郡山市において、黒澤隆助教授を招き同じく学習講座と交流会を開催しました。岐阜支部は11月29日に岐阜市において、支部長を中心に学習交換会が行われました。

同期卒による同窓会では、25期卒による10周年記念同窓会として、11月11日に本学において岩井教授ほか多数の先生方が出席し、記念礼拝、学習会を行いました。懇親交流会は場所を定山溪に移し、先生方との忌憚のない交流会を行う事ができました。

2期卒の35年記念同窓会は、酪農学園70周年の節目に開催する事として、恩師牛島純一、山下正亮先生を招き、千葉県木更津市において学習交流会を開催致しました。学習会では獣医学科創設当時の状況、学科のあゆみと未来等について出席恩師および現職教師よりあいさつと講話をいただき、有意義な同朋会として終了致しました。



### ◆◆ 埼玉県支部同窓会 ◆◆

同支部同窓会の第8回総会とシンポジウムが、去る6月15日に別所沼会館において開催されました。開催の際には高橋会長、大谷学長、岩井洋教授(地域環境)および奥野関東同窓会長、佐々木六朗事務局長が出席し開催されました事を報告致します。

### ◆◆ とわの森三愛高校(シオン寮)同窓会 ◆◆

11月22日、パークホテルにおいてシオン寮で寝食と生活を共に、学校生活を送った寮生の同窓会が開催されました。学校側より村山昭二校長ほか多数関係の先生方が出席し、当時をしのび思い出の語りいと交流を行い有意義に終了致しました。

### ◆◆ 雄武町デーリイクラブ同窓会 ◆◆

同町のデーリイクラブ同窓会は、平成15年度も本学学生を対象に20日間の実学実習体験、地元同窓会と酪農技術の学習交流会を行うなど、有意義な技術の交換会を行いました。



### ◆◆ これから開催される同窓会とお願いについて ◆◆

#### ◎とわの森三愛高校(旧三愛女子高校)21期卒同窓会の開催について

日時は2004年6月12日(土)午後6時より開会を予定致しております。場所は札幌第一ワシントンホテルにおいて開催を予定致しておりますが、詳細は後ほど会員の方々にご案内致しますので、多くの方にご出席いただきたくお待ち致しております。

#### ◎同窓会連合会事務局からお願い

支部同窓会総会、同期、学科等の同窓会および生涯教育シンポジウム等の開催について要望ご意見等がありましたら、同窓会事務局(011-386-1196)までご連絡ください。

#### お知らせとお願い

- \*同窓会連合会のホームページを同窓会の活動にご活用ください。  
HPアドレス:<http://www.rakuno.ac.jp/dosokai/iriguchi.htm>
- \*住所の変わられた同窓生の方は、下記のいずれかの方法で同窓会事務局までご連絡ください。  
TEL 011-386-1196 / \*FAX 011-386-5987 / \*手紙またはハガキ  
Eメール [rg-dosok@rakuno.ac.jp](mailto:rg-dosok@rakuno.ac.jp)  
〒069-8501 江別市文京台緑町582・酪農学園同窓会連合会事務局

## 酪農育英会だより

## ◆◆ 奨学金の返還についてのお願い ◆◆

酪農育英会は1958年の設立より46年目を迎え、今年度は大学院、大学、高校を合わせて36名の学生、生徒に対し貸与を行っています。

この奨学事業は先輩からの返還金が直ちに後輩への奨学金として貸与されていく仕組みになっていますので、返還が滞ると事業の円滑な運営に大きな支障を来すこととなります。また、ここ数年の金融情勢の悪化に伴い、当育英会の運営もますます厳しいものとなっています。

卒業された貸与者の皆さまへは毎年、各自の返還時期（6月または12月）に合わせて事前に返還実績額、当年度の返還額等をお知らせし、振込用紙を送付していますので期日までの返還をよろしくお願い致します。

期日までの返還が困難の場合は事情により返還方法の変更、一定期間の猶予などの手続きもとれますので、必ず、連絡を願います。

連絡がなく、返還のない場合は督促状発送の上、法的な措置を講ずる事もありますのでご留意ください。

なお、住所、氏名などの変更および返還期日、支払い方法な

どの相談がありましたら、お気軽に本会事務局まで連絡、お問い合わせください。

財団法人 酪農育英会事務局  
〒069-8501  
江別市文京台緑町582番地  
TEL 011-386-1211

## スポットニュース

## ◆◆ 本学キャンパスでテレビドラマの収録 ◆◆



テレビ朝日系のドラマ「相棒」（毎週水曜9時放送）の北海道スペシャルの撮影が、酪農学園大学キャンパス内で行われました。

このドラマは水谷豊さんが演じる頭脳明晰な刑事と寺脇康文さんが演じる熱血漢の刑事のコンビによるテンポのいい、ユニークなストーリーの人気のある刑事ドラマです。

撮影は白樺並木や黒澤記念講堂前、学生課等で行われ、本学からは近代演劇部の学生や職員がエキストラとして参加しました。参加した近代演劇部の酪農

学科1年・松延亜果音さんは「演技の勉強になればいいと思って参加しました。いい機会に恵まれてよかったと思う」と少し緊張した面持ちで撮影に臨んでいました。

なお、このドラマは2月4、11日の2週にわたって放送されました。

## ◆◆ 尊い命に感謝を動物記念祭を開催 ◆◆

酪農学園大学獣医学部は12月6日、黒澤記念講堂において第32回動物記念祭を開催しました。今年度は慶應義塾大学医学部名誉教授の前島一淑氏による講演会「動物の福祉と科学」も催され、多くの学生、教員、そして附属家畜病院で死亡した動物の飼い主らが出席しました。

記念祭は礼拝形式で行われ、礼拝後に獣医学科4年の小関陽子さん、獣医学部長の岩井滋教授があいさつしました。その中で小関さんは、伴侶動物や産業動物、実験動物は、形は違うが人間に貢献しているとし「動物の愛護や福祉に目を向けがちだが、人間の生活にどれだけ動物が命を捧げてくれているのかを



考えることが大切だ」と述べ、岩井学部長は「涙を流す死、流さない死があるが、心が痛まない死はない。今日だけが動物記念祭なのではなく、日常意識していなくても毎日の生活そのものが記念祭である」と述べました。その後、講堂・動物墓前で献花が行われました。

## ◆◆ クリスマス礼拝・祝会行われる ◆◆

12月25日、黒澤記念講堂において高橋一宗教主任の司式により、クリスマス礼拝が行われました。

讃美歌、聖書朗読の後、とわの森三愛高等学校の生徒によるハンドベル演奏が行われ、優しい音色が講堂中に響き渡りました。その後、榮忍高校宗教主任の「共にいるということ」の説教へと続き、礼拝に参加した教職員は真剣に聞き入っていました。

礼拝に続き、永年勤続者の表彰が行われ、今年は10名の教職員が表彰されました。

その後、学園ホールでクリスマス祝会が催され、料理を囲んでの楽しいひとときを過ごしました。



## 編集後記

「酪農学園だより」は今回で100号目を迎えました。1969年12月に発行された第1号より3度の紙面刷新を経て、学園のさまざまな情報をお知らせしてまいりました。これも、編集にご協力いただいた多くの方々のおかげであり、感謝するとともに、今後ともより一層皆さまに楽しんでいただ

るよう、タイムリーで分かりやすく、読みやすい「酪農学園だより」を心掛けていきたいと思います。それには、皆さまからのご意見等が大きな力となります。身近な情報などがございましたらぜひ、右記までお寄せください。今後ともよろしく、お願い申し上げます。(O)

## 酪農学園だより

RAKUNO GAKUEN Vol.100  
発行：学校法人酪農学園 2004.2.16

酪農学園大学/大学院/酪農学園大学短期大学部  
とわの森三愛高等学校

編集：学園広報室

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582  
TEL (011) 388-4158 FAX (011) 388-4157  
HPアドレス：http://www.rakuno.ac.jp/  
Email:koho@rakuno.ac.jp